

# 生活



入植当時の開拓者の生活は、開拓小屋といわれる掘っ建て小屋から始まりました。自給自足の生活から、文化的な生活が始まるのは、大正 5（1916）年に初めて発電所が可動し、電灯がついてからです。飲み水は、市街地一帯が粘土質、あるいは泥炭地で、開拓当初から飲料水には適さず、悩みの種でした。上水道を敷設する工事は、昭和 27（1952）年から始まり、5 年後に完成し、天塩川の水を取り込み、浄化後、各家庭に給水するようになりました。

郵便局が開設したのは、明治 33（1900）年です。また、電信業務を開始したのは、明治 34（1901）年札幌・士別間が開設されてからです。今でこそ、携帯電話がありますが、当時遠く離れた人に連絡する方法は、郵便局で手紙を出すか電報を打つしかありませんでした。その後、昭和 24（1949）年に電報電話局が開局し、固定電話が企業や商店に普及しますが、一般家庭や農村地区まで電話が普及するのは、昭和 53（1978）年士別地区自動化完了以降になります。

